

A watercolor illustration of a landscape with a pinkish-purple sky, a blue horizon, and a reddish-brown ground. Three butterflies are scattered across the sky: one purple and orange on the left, one pink and orange on the right, and a smaller purple and orange one on the far left.

Dialogue

with Mina Koike and Eriko Jane Takano

2023.01.08 (sun)

9:30 open 9:45 start

part I 9:45-11:25

part II 12:05-13:35

salon de W

Dialogueは、

MinaとErikoと、そして参加者の皆様との中に生まれる対話を通じて、

今よりもさらにもう一步、深く、私たちが自らの身体に、そしてそれを包む環境や人に耳を傾けてみる、

そんな風に感じて考えたことを、お互いに共有し合い、また耳を傾け合う、

そんな時間を創り体験することを目的としたプログラムです。

こんにちは。

ピアニストのMinaと詩人のErikoです。

海外と日本を行き来しながら、これまで異なる場所や分野でそれぞれアーティストとして活動してきた私たちですが、2021年10年ぶりの再会を果たし、対話を重ねる中で、作品への向き合い方に共通する点を見つけました。

私たちはお互いに、

自らの心や身体に「耳を澄ませる」こと

そしてそれと同じように出会う人や事柄に耳を澄ませてみる、

そんな対話の時間を大切にしながら、それぞれ音楽と言葉に向き合うことを心がけています。

そしてそんな「耳を澄ませる」ことから始まる対話の積み重ねは、

作品そのものだけではなく、自らの内面を養うためのサポートとなってくれていることを実感しています。

そんな私たちが大切にしている「耳を澄ませる」そして「対話する」という体験を、

ワークショップという形で皆様にもシェア出来たらという願いを込めて、

『ダイアログ』というプログラムは生まれました。

この体験が皆様にとって、

これまでとは少し違う形で音楽や詩を味わって頂くそんな時間となれば幸いです。

Mina Koike, Eriko Jane Takeno

プログラム内容

日時 | こちらのプログラムは複数回のワークショップをワンセットとするものとなっております。

今回は2回セットを予定しております。

1回目は1月8日(日) 9:30開場、9:45~13:35

2回目は1月21日(土) 9:45~2時間前後を予定

場所 | 1回目・2回目共に自由が丘のサロン salon de W にて対面での実施を予定しております。
(2回目のみ対面でのご参加が叶わない方・参加自体が叶わない方はご相談下さい。)

参加費 | ¥8,000(ドリンク、材料費込み)

最後に、

このプログラム参加にあたって、
特別なスキルや持ち物の必要はございません。

特に、

音楽や言葉との新しい向き合い方に興味がある方、
私たちの表現プロセスに興味がある方、
アートという視点から内面へ向き合ってみたい方、
もしくは感覚や身体を少し解きほぐしてあげたいと感じられている方、
などにお勧めのプログラムとなっております。

<ご参加頂く際、下記を必ずご確認ください>

- ・会場内での「マスクの着用」は自由とさせていただきます。
- ・当日、体調の優れない方はご参加をお控えください。その場合、キャンセル料はかかりません。
- ・会場の椅子は自由に動かせます。ご自身の判断で他の参加者の方との距離をご調整ください。

Eriko Jane Takeno

英国ロンドン生まれ、東京育ち。現在はアーティスト、研究者、詩人として国際的に活動。
田園調布雙葉学園卒業、青山学院大学文学部フランス文学科にて学士号取得後、英国王立芸術大学
コミュニケーション学部インフォメーション・エクスペリエンス・デザイン専攻にて修士号取得。

「脆弱性は分解、解決のための無限の可能性である」(2018)と語るイタリア人哲学者フェデリコ・
カンパーニャに着想を受け、アート活動を通じて自身の内省的経験を探求し、個人の内省的経験が
どのようにして他者の治癒過程に役立てられるのかということテーマとして活動。

各国での作品発表と同時に、心理学者と共同で独自に開発したワークショップ「センサリー・マルチ
モダル・ワークショップー媒体としての空間、手段としての詩的思考」を継続的に日本やヨーロッパ
で開催。また、米国での実験的な芸術の実践を後押ししたノースカロライナ州ブラック・マウンテン
・カレッジで実施された芸術中心教育の考察に基づいた研究論文は、米国やヨーロッパ各国の学会
にて発表。ヘレン・ハムリン・デザイン賞 2019ノミネート(英国)、韓国文化センター OPEN CALL
2019 ファイナリスト(英国)、bang.Prix プログラム2020 ファイナリスト(トルコ)などの受賞歴を持つ。



Mina Koike

石川文子氏のもと3歳よりピアノを始める。田園調布雙葉学園を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業後、
アメリカ・ニューヨークのマネス音楽院に留学。Victor Rosenbaum氏に師事し修士課程、及びプロ
フェッショナルディプロマ課程修了。また、ニューヨーク大学ピアノ演奏家コースにてEteri
Andjaparidze氏のもと、アーティストディプロマ取得。

ヤングアーティストコンクール、ネオクラシック国際コンクール、Five Towns Music and Arts Foundation
Young Musician Competition、American Protegeなど国内外のコンクールにて受賞を果たし、2016年には
カーネギーホールにて演奏する機会を得る。また2018年夏にはベルギー・アントワープ音楽祭にゲストア
ーティストとして招かれ演奏を行う。

これまで石川文子、宗施月子、山田富士子、Victor Rosenbaum、Eteri Andjaparidzeの各氏に師事。
定期的なソロリサイタルの開催・大阪フィルハーモニー交響楽団と共演などソリストの活動に加え、
室内楽にも意欲的に取り組み、国内外で幅広く演奏活動中。
2016-2017年、ニューヨーク大学にて非常勤講師を務める。